

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.199 2015.7.1

松本をみつめて110年

博物館に置かれる収蔵品は、
一つ一つに人々の営みや想いが投影されていて、
それ自身が「松本の記憶」です。

松本市立博物館は、
前身の明治三十七、八年戦役記念館の開館から、
110周年を迎えます。

博物館が守り、そして未来に残していく「松本の記憶」を
ご紹介する特別展を開催します。



博物館の前身
明治三十七、八年戦役記念館(左)と松本尋常高等小学校



「信濃ノ冬」(昭和10年1月2日) 旧東筑摩郡中山村神田(現松本市神田)の千鹿頭山から撮影された写真で、朝日新聞社の全国コンクールに入選しました。かつての松本の景観を知ることのできる貴重な資料です。(個人蔵、撮影・横山勝司氏)

もくじ 誌上博物館 ◇ 松本市立博物館 110 周年記念特別展

「博物館がみつめる松本～収蔵品からよみがえる記憶～」……………2-3

博物館TOPICS ◇ 第5回 戦争と平和展

「放射線医学者・平和運動家永井隆と版画家加藤大道の交流」……………4

◇ 生誕150周年記念特別展「澤柳政太郎とその時代」……………5

博物館TOPICS ◇ まつもとの七夕2015 ……………6

各種事業紹介……………7

ガイドコーナーはんてんぼく……………8

松本市立博物館110周年記念特別展

「博物館がみつめる松本～収蔵品からよみがえる記憶～」

1 はじめに

平成26年(2014)8月、ある資料群が松本市立博物館に寄贈されました。同年に開催された第4回「戦争と平和展」の会期中にご連絡をいただき、調査のうえ寄贈受入を行ったもので、私たちは現在、これを池田コレクションと呼んでいます。池田コレクションは、その前年、平成25年に亡くなった池田清治さんの遺品で、同氏の従軍の記憶をうかがい知ることのできる資料でした。資料の寄贈にあたっては池田さんの未亡人であられる皓子さんにご高配を賜りました。

今年は、周知のとおり終戦後70年となる節目の年で、本展会期中に8月15日をむかえます。一市民の遺品と戦争との関わりから、歴史資料というものが、いかに活用できるものなのか。本展の考察方法の一部分を以下にひもとき、ご紹介いたします。

2 池田清治さんの従軍記①一戦傷

池田清治さんは、大正6年(1917)、元町に生まれ、昭和のはじめに青年期をむかえます。この時期、経済・国際情勢に暗雲が立ち込め、長い戦争がはじまります。池田さんは高等小学校を卒業した後、昭和10年(1935)に市内の工場に入社しました。

しかし、就職後しばらくして、兵役法(徴兵令廃止により昭和2年施行)によって、昭和13年に入営することとなります。兵役に従事することになった池田さんは満20歳を迎えていました。

折しも、昭和12年の盧溝橋事件を発端に、昭和20年8月の終戦まで継続する日中戦争がはじまっていました。多くの若者が戦地に赴き、池田さんも中国南部へ出征することとなります。

池田さんがこの地で体験した戦闘は激戦であったはずです。池田さんは、右大腿部に被弾し、重傷を負いました。銃弾は体内に残り、摘出手術が行われ、池田さんは帰国して療養することとなります。コレクションには、このときの銃弾と療養中の写真が残っていました。銃弾は、約3.5cmの大きさですが、1.5cmほどのところから、なだらかにすぼまりはじめ、初見の際にはとても鋭利であると感じました。銃弾は、池田さんが終世、手元に置いたものです。その生々しさと対照的に、療養中に撮影された写真の池田さんの表情はあどけなく、清々しい微笑みを浮かべているのが印象的でした。



池田さんが受けた銃弾
(昭和13年)

池田さんが被弾した時点は、彼にとって青春でした。コレクションには4人の戦友と、戦地で餅つきをする様子が写された写真もあり、兵役のなかで、思い出に残る

楽しい経験もあったことがうかがえます。

しかし、池田さんは生涯、被弾の体験を記憶から消し去ることはできなかったはずです。池田さんの青春、それは、まぎれもなく戦争の時代でした。

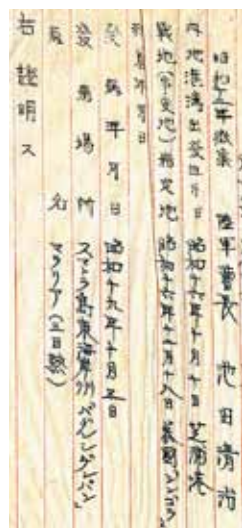


療養中の池田さん(昭和13年)

3 池田清治さんの従軍記②一戦病

療養後、松本に戻り、復職した池田さん。しかし、時代は戦傷後の彼に、この平で平穩に過ごすことを許しませんでした。昭和16年に太平洋戦争が開戦となります。この年、池田さんは満23歳で、法に定められた2年の現役期間を終えていましたが、同じく法で義務付けられた5年4か月の予備役の期間にあたり、召集され、再び出征します。行先は東南アジアでした。

一般にこの地域で戦闘を展開した旧陸軍は、戦傷者以上に戦病者を多く出したことが知られています。悲惨な戦地の状況は戦後に生還した人々の語るところとなり、小説などにも描かれ、よく知られています。池田さんはスマトラ島でマラリアに罹患しました。コレクションにはそのことを証明する書類が残っています。



「事实証明書(部分)」(昭和22年)

マラリアに罹患したことは、池田さんの人生にとって決定的であったと言えるでしょう。復員した後も、池田さんは40℃近い高熱を出すことが何度かあり、熱を出すと身体をぶるぶると震わせながらのけぞらせ、新妻の皓子さんがやっとの思いで抑えつけるといこともあったそうです。しばらくは通院が必要でした。これに加えて、体が耐えられるような職業を選ばねばならず、仕事にも苦労があったようです。

4 松本平に生きた一人の人

戦後、池田さんはいくつかの職業に従事し、最後の仕事を退職した後は、息子さんの営むスポーツ用品店を手伝いました。近辺に暮らした私と同年代のスポーツ少年のほとんどは、このお店にお世話になっています。

そして、孫にも恵まれ、苦難があったにも関わらず、96歳という大往生を果たします。

池田さんは、市井の人です。昭和初期にあっては工場に勤務する、ごくごく普通の青年でした。

ところが、昭和という時代は、池田さんに戦傷と戦病をもたらし、その後の人生に深刻な影を及ぼすのです。もしも、生まれたのがもっと遅ければ池田さんは別の人生を歩んでいたでしょう。また、そうであれば池田コレクションが発生する余地もなかったはずです。

この事例は、2つの戦争で兵役を果たさざるを得ず、戦傷と戦病を体験したという、戦後に生まれた私たちからすれば特異なものです。しかし、同時代に思い至ると決して特異とは言い難いのではないのでしょうか。池田さんの過ごしたのは、数十、数百万の人が戦争に動員される世界です。

政策により、ある若人が人生において重篤な起点を2度も迎えなければならなかったこと、そして、それはたったの一例に過ぎないこと。このことを知り、学ぶべきことは、私たちにあって多いと言わざるを得ないのではないのでしょうか。

5 戦争と近代史

昭和に限らず、明治維新を経て、日本は対内的、対外的な戦争をいくつか体験しました。数万人以上が動員された代表的な戦争は、戊辰戦争(1868～69)、西南戦争(1877)、日清戦争(1894～95)、日露戦争(1904～05)、シベリア出兵(1917～22)、日中戦争(1937～45)、太平洋戦争(1941～45)が挙げられます。このように併記すると良くわかるのですが、この7つの戦争の間隔は短くて中7年、長くても中14年でした。最もここでは、巨大な動員のあった戦争を挙げるのみです。

池田さんが体験した太平洋戦争では、少なくとも8百万人の国民が動員され、2百万人を超える人が犠牲となったといえます。当時の人口は7千万人ほどといわれますが、これらは出来事の甚大さをうかがうことのできる数字といって良いでしょう。太平洋戦争は、それまでの日本史上、最も大きな事件であったということができ、また、近代という時代もこの側面から捉えれば、他に類を見ない激動の時代でした。

確かに、この時代において、日本という国が果たした発展、国際的な地位の向上は「奇跡」と呼ぶにふさわしいものがあります。安政5年(1858)に5つの国と不平等条約を結ばざるを得なかった国が、大正8年(1919)のヴェルサイユ条約の発効以後においては、いわゆる五大国に数えられ、列強と呼ばれるまでになります。要したのは60年ほどに過ぎません。

しかし、同じ近代に重大な歴史的事件、つまり、いくつかの戦争を経てきたことは忘れるべきことではありません。

実は、池田コレクションには厳父である清三郎さんの関係品も含まれていて、賞状などが見られます。清三郎さんは、旧陸軍歩兵五十連隊に所属していました。資料の中にある記念盃とその箱書より、清三郎さんが

松本市立博物館の前身「明治三十七、八年戦役記念館」の開館する明治39年(1906)から、五十連隊が松本に衛戍することとなる41年まで、日露戦争後の韓国に派兵されていたことがわかります。

実は、池田コレクションは、清治さんの一身上に起こった戦禍の様相を知るに留まらず、近代を過ごした親子2代の従軍の歴史を考察するに足る資料なのです。

松本市立博物館は、110年の歴史を有しますが、その創起は前述の「明治三十七、八年戦役記念館」の開館に求められます。この施設は市域出身の兵役従事者が日露戦争の「戦利品」などを寄贈したことがきっかけで設立されたものでした。このことから、私たちにとって、述べてきたような資料群はことさら意味があります。創設の経緯から、私たちには戦争の歴史を知り、考察することが宿命であるともいえるからです。



池田清三郎さんの記念盃「韓国守備記念」

6 博物館とは何か—むすびにかえて

社会における博物館の役割を述べるとすると、「収集・保管、調査・研究、教育・普及」など、よくいわれる一般的な解釈を列挙することができます。時代を経るとともに、博物館は多機能となり、事業の展開も高機能になりつつあるといえるでしょう。

また、歴史学という学問領域は、資料の公開・発見や多様な視座による研究成果が蓄積して発展し、博物館は様々な角度から、様々な深度で歴史に光をあてることができます。

しかし、ひるがえって博物館の役割は何か、社会に何をもって貢献できているのかという疑問もあります。

そうしたときに、池田コレクションは、博物館資料というものが一個の記憶に息吹を与え、よみがえらせ、あらたな役目をもって人々に共有され得るという可能性を教えてください。そのような気がします。

博物館は、人々にとって「記憶装置」であるといえます。

本紙では、展示でご紹介する資料の一例を紹介しました。ここで述べてきた池田コレクションの事例のように、本展が資料によって先人の記憶を保管し、それを学び、未来のために供するという博物館の役割を、皆様とともに実感できる機会となれば幸いです。

(松本市立博物館 学芸員 / 草間厚伸)

松本市立博物館開館110周年記念特別展 「博物館がみつめる松本～収蔵品からよみがえる記憶～」

【会 期】 7月25日(土)～9月23日(水・祝)

【会 場】 松本市立博物館 2階特別展示室

第5回 戦争と平和展

「放射線医学者・平和運動家永井隆と版画家加藤大道の交流」

1 はじめに

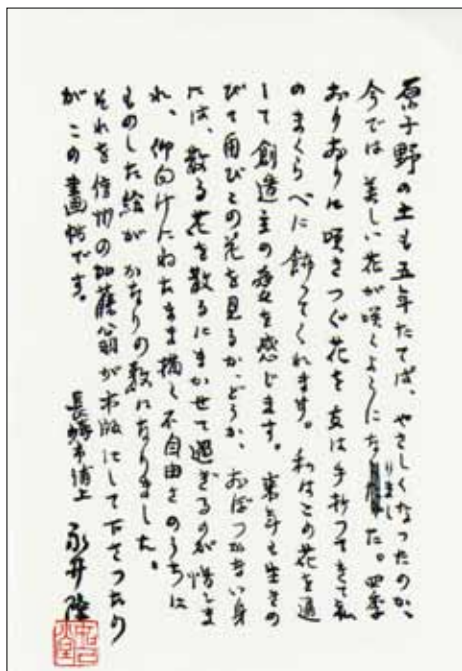
「戦争と平和展」は、平成23年度に行われた第23回国連軍縮会議 in 松本を契機として、以後毎年開催されている特別展です。

戦後70年を迎える本年度は、長崎の平和運動家・永井隆と、郷土の版画家・加藤大道の交流から生まれた作品『原子野の花』と書簡などを展示公開します。

2 永井隆とは

永井隆(1908～51)は、島根県松江市の出身です。長崎医科大学付属病院で放射線医学を学び、博士号を取得しました。しかし、研究に打ち込んだためか、過度の放射線被爆から白血病となり、余命3年の診断を受けました。さらにその年の8月9日、長崎市に原子爆弾が投下されます。妻を失い、自らも重傷を負う中、医師として被爆者の救護や被害の記録につとめました。しかし、病状が悪化し、その後寝たきりの生活を余儀なくされました。

しかし、病床でも永井は平和を祈念して多くの随筆、絵画などを製作しました。これらの著作は国内外で大きな反響を呼び、昭和天皇やヘレン・ケラーなど様々な人が見舞いに訪れました。著書『長崎の鐘』『この子を残して』の2作は映画化もされています。



『原子野の花』序文

3 加藤大道とは

加藤大道(1896～1965)は、南安曇郡安曇村(現松本市)に生まれた版画家です。塩尻郵便局に勤務しますが、画家を志します。日本画家・赤羽雪邦

の内弟子となり上京し、「雪深」の号を得ました。その後絵画研究のために中国へ留学し、帰国後は元東京美術学校彫刻科教員白井雨山に弟子入りしました。独立後に号を「大道」と改め、郷里に戻ってからは版画製作に打ち込みました。アトリエを「版画荘」と名付け、「創作木版画頒布会」を組織して版画作品の頒布を行うなど精力的に活動しました。昭和16(1941)年に右眼を失明、その後左眼の視力も悪化するという困難にあいます。しかしその後、も長く製作をつづけました。素朴で独特の味わいのある加藤の版画には、今も多くの愛好者がいます。

4 二人の交流

永井の著書『この子を残して』を読んだ加藤は、妻を失い、余命いくばくもない中で二児を育てる永井の姿に心を打たれ、永井親子に自作の版画集を贈ります。永井はその返礼として病床で描いた水彩画を贈り、二人の交流が始まりました。永井の作品に感動した加藤は、永井の絵を版画にすることを申し出ます。製作は永井の死まで続けられ、作品は版画集『原子野の花』としてまとめられました。

長崎の永井の姿に思いを馳せて製作活動を行った加藤とその交流から、本展が戦争と平和について考えるきっかけとなれば幸いです。

(松本市立博物館 学芸員/丸山和子)



加藤大道版画「紙人形を持つ少女」(原画:永井隆)

第5回 戦争と平和展

【会 期】 8月1日(土)～8月23日(日)

【会 場】 松本市立博物館 1階ロビー

成城学園・松本市連携企画 生誕 150 周年記念特別展「澤柳政太郎とその時代」

1 開催にあたり

しかして本当の教育は人間の本性と申しましょうか、児童の天分、さらにむつかしく申しますれば各自の持って生まれた特性才能を啓発して行く所にあると存じます。——しかし今日の教育は大人が大人の考えを以て、これも必要である、かく為すべし、かく為すべからず、ときめたものを児童に要求しすぎる嫌が極めて多過ぎると存じます。理想を組織的に哲学的に構成することはむつかしいが、砕けて申して見れば、立派な人、善い人、正しい人、親切な人となることです。——

私共はこの目的を達するのに、自然的方法、児童の本性特性に教えられなければならぬと信じてやっておるのです。

(昭和2年、成城小学校創立10周年祝賀会にて)



成城小学校の児童と教員(後列中央が澤柳政太郎)

これは、松本市出身の文部官僚であり教育指導者、教育思想家であった澤柳政太郎の言葉です。

澤柳政太郎は、明治から昭和のはじめまで活躍し、近代日本の教育史に大きな足跡を残した人物です。今年はその生誕から150年となる節目の年です。

文部官僚時代の澤柳は、義務教育の無償化や小学校6年制の確立など、普通教育の拡充に尽力しました。文部省退官後は、私立成城小学校を創設し初等教育の改革を目指し、教育研究と実践の日々に明け暮れます。晩年は世界教育会議など多くの国際会議に日本代表として参加しています。「本当の教育」の実現をめざし教育に生涯を奉げた澤柳は、「学都」を目指す松本市にとって偉大な先達です。今回は、そんな澤柳の生涯と事績をたどる特別展を、成城学園(東京都)と松本市が連携で開催します。ゆかりのあるそれぞれの土地で、成城学園教育研究所に残る豊富な資料をもとに、澤柳の目指した「本当の教育」の姿を探ります。

2 メイン展示「澤柳政太郎とその時代」

重文旧開智学校会場、成城会場
重文旧開智学校と成城学園では、澤柳の生涯と事績をたどるメイン展示を行います。松本での誕生から文部省での活躍、成城小学校での教育実践、国際舞台での活躍などのテーマから澤柳の足跡をたどります。また、代表的な著作から教育学者としても名高い澤柳の教育思想を探ります。

普遍的な理想の教育を求め続けた澤柳の言葉は、現在の私達にも深く響いてきます。ぜひ展示室で、澤柳の生の言葉や資料に触れてみてください。これからの「本当の教育」を考える機会となると思います。

(重要文化財旧開智学校校舎 学芸員/遠藤正教)

3 テーマ展示「旧制成城高等学校～新しい教育を求めて」

旧制高等学校記念館会場
旧制高等学校記念館では、旧制成城高等学校にスポットをあてた展示を行います。

旧制成城高等学校は現在の成城大学の前身校。澤柳政太郎の理念を反映し、自由と個性を尊重する教育で、多様な分野へ人材を輩出しました。今回の展示では、当時の最先端であった旧制成城高等学校の教育と、独自の校風のもとで育った学生たちの横顔をご紹介します。

(旧制高等学校記念館 学芸員/麻生沙絵)

生誕 150 周年記念特別展「澤柳政太郎とその時代」

〈生誕の地・松本にて〉

〔会 期〕7月18日(土)～9月23日(水)・(祝)

メイン展示「澤柳政太郎とその時代」

〔会 場〕重文旧開智学校/展示室

〔観覧料〕通常観覧料(大人 300 円、小中学生 150 円)

テーマ展示「旧制成城高等学校～新しい教育を求めて～」

〔会 場〕旧制高等学校記念館/1階ギャラリー

〔観覧料〕無料(常設展示は高校生以上 300 円)

〈実践の地・成城にて〉

〔会 期〕11月5日(土)～11月18日(水)

メイン展示「澤柳政太郎とその時代」

〔会 場〕緑蔭館ギャラリー(東京都世田谷区成城)

〔観覧料〕大人 300 円

■講演会

澤柳政太郎と長野県の教育—信州自由教育とのかかわりに注目して

〔講 師〕北村和夫氏(聖心女子大学副学長)

〔日 時〕8月29日(土) 13:00～15:00

〔会 場〕松本市あがたの森文化会館2-8教室

〔料 金〕無料

松本まるごと博物館連携事業 まつもとの七夕 2015

松本には、月遅れの七夕・8月7日に七夕人形を飾る風習があります。博物館では、市民や観光客のみなさまにこの伝統を伝えるために、毎年、月遅れの七夕の時期にあわせて多彩な事業を行っています。なかでも、松本のまちなかに七夕人形を飾る「まちなか展示」は、地域と連携しながら今年度11年目を迎え、松本の風物詩の一つとなっています。

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

まちなか展示

7月18日(土)～8月16日(日)

月遅れの七夕にあわせて、博物館周辺の町会や商店街に七夕人形の紙雛を飾ったり、大名町通りを笹飾りで彩ったりします。

[場 所] 周辺市街地の各所

年中行事シリーズ「ほうとうサービス」

8月7日(金)午前10時～

松本では、七夕にきなこや小豆あんをあえたほうとうを食べる風習があります。博物館ではボランティア団体エムの会の協力により、午前10時から来館者に無料でふるまいます。
※ほうとうがなくなり次第終了。



重文馬場家住宅 Tel.0263-85-5070

古民家で楽しむ七夕さま

7月4日(土)～8月16日(日)

本棟造りの古民家で、松本伝統の七夕人形の展示をお楽しみください。

[料 金] 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

七夕人形作り講座

7月12日(日)午後1時30分～午後3時30分

簡単に作れる「七夕人形作りキット」を使って七夕人形を製作します。

[定 員] 10人

[参加料] 1,030円及び通常観覧料

(大人300円、中学生以下無料)

[申込み] 電話で馬場家住宅まで

ほうとうサービス

8月7日(金)午前10時～

※ほうとうがなくなり次第終了。

七夕人形作り講座

8月5日(水)・6日(木)

簡単に作れる七夕人形を製作します。

[場 所] 市立博物館 1階常設展示室

[料 金] 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)



窪田空穂記念館 Tel.0263-48-3440

星に願いを

7月4日(土)～8月16日(日)

空穂生家に七夕人形や笹飾りを飾りつけます。趣のある古民家のなかで、松本の七夕の雰囲気を感じていただけます。

[料 金]

通常観覧料

(大人300円、中学生以下無料)



はかり資料館 Tel.0263-36-1191

七夕人形展

7月4日(土)～8月16日(日)

松本伝統の七夕人形をパネルや写真で紹介します。また、お休み処に七夕人形や笹飾りを飾りつけます。

ほうとうサービス

8月7日(金)午前10時～

※ほうとうがなくなり次第終了。

四賀化石館夏季特別企画 **シガマッコウクジラ復元イラスト展**
「よみがえるシガマッコウクジラ—復元は骨から物語がはじまる」



シガマッコウクジラ3D画像

山国信州は、かつてクジラが泳ぎ回る海でした。その海を泳いでいたシガマッコウクジラの全身骨格化石を基に、イラストレーターのスズキサトル氏が、1,300万年前の姿をイラストでよみがえらせました。

海生哺乳類化石の研究者・木村敏之氏の監修を受け、イラスト製作過程をパネルで展示します。3Dプリンターで10分の1サイズで出力した骨格レプリカも展示(7月18日より)。また、オリジナル教材を使い、古生物の話を聞きながら復元の世界を学べる楽しい講座も開催します。

会 期 7月14日(火)～8月30日(日)

会 場 四賀化石館

料 金 通常観覧料(大人300円、小中学生150円)

問 合 せ 四賀化石館へ(☎0263-64-3900)

①シガマッコウクジラ復元イラストワークショップ

会 期 7月18日(土)

講 師 スズキサトル 氏

②ティラノサウルス復元ワークショップ

会 期 8月2日(日)

講 師 萩野慎諧 氏

時 間 ①②とも

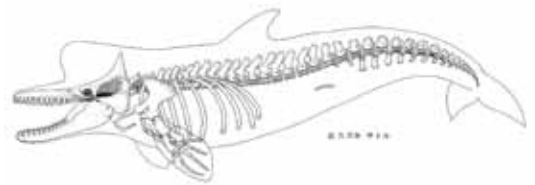
午前10時からと午後1時30分からの2回

受講料 1,000円(観覧料込)

対 象 小学校年生以上(応相談)

定 員 各回20名とその保護者

申込み 7月7日(火)午前9時より電話予約



シガマッコウクジラ骨格修正イラスト

夏期特別展 **時計の歴史**

時計の歴史が始まるのは、日時計が作られた紀元前1500年頃と言われています。この、単純にして画期的な時計が作られたのち、水時計や燃料時計が生み出され、13世紀になって錘(おもり)を使った機械時計が登場します。その後、ゼンマイを動力とした時計が発明されると、小型化が可能となり、いろいろな形状・用途の時計が作られました。以後、時計は様々な国に渡り、独自の発展を遂げていくことになります。

本展では、当館所蔵の時計資料を、歴史の時間軸上に沿って展示し、時計が歩んできた足跡を辿ります。

会 期 7月25日(土)～8月30日(日)

会 場 松本市時計博物館 3階企画展示室

料 金 通常観覧料(大人300円、小中学生150円)

問 合 せ 松本市時計博物館へ(☎0263-36-0969)



企画展 **歴史の里コレクション展**

松本市歴史の里には、江戸時代から昭和時代にかけて建てられた建造物5棟が移築・復元されており、移築建造物や当時の生活に関連した資料約13,000点を所蔵しています。今回の展示では、建造物に関連した資料のほか、当館に寄贈された資料の中で常設展示にしているものを中心に紹介します。この機会にぜひご来館ください。

会 期 7月25日(土)～9月27日(日)

会 場 松本市歴史の里

料 金 通常観覧料
(大人400円、中学生以下無料)

問 合 せ 松本市歴史の里へ(☎0263-47-4515)



刑務官関係資料

重文馬場家住宅から

☎0263-85-5070

はた織り体験教室（裂布・ボロ織り）

日 時 7月25日(土) 裂布の袋物を作る
8月22日(土) 自然素材で織る(竹ひごなどでつくる敷物)
①午前10時～正午
②午後1時～午後3時(午前、午後とも同一内容)
会 場 重要文化財馬場家住宅
対 象 大人
定 員 10名(実施日の1か月前より受付開始、先着順)
料 金 1,000円
指 導 染織の会
申 込 み 重要文化財馬場家住宅まで

お茶席の会

本棟造りの古民家でゆったりとしたひとときを過ごしませんか。

日 時 7月26日(日) 午前10時～正午
担当 松風の会(表千家)
8月23日(日) 午前10時～正午
担当 おしゃれ茶道の会(裏千家)
会 場 重要文化財馬場家住宅
料 金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)
申 込 み 不要

子連れコンサート

日 時 8月22日(土) 午前10時～午前11時
会 場 重要文化財馬場家住宅
対 象 どなたでも ※託児有
料 金 無料
出 演 深瀬人寛氏(シンガーソングライター)
問 合 せ 寿公民館(TEL58-2038)まで

松本民芸館から

☎0263-33-1569

体験講座「子ども民芸教室」

子どもたちが夏休みのものづくりを楽しめる教室です。布を裂いて織る『裂織』と子ども用の椅子を作る『木工』の2コースです。

日 時 7月26日(日) 午前10時～午後3時
会 場 松本民芸館
対 象 小学校高学年以上
定 員 各コース10名
料 金 500円(材料費)
講 師 『裂織』: 山賀照子氏 『木工』: 竹下賢一氏
持 ち 物 昼食
申 込 み 電話等で松本民芸館まで

企画展「ふるさとの香り 玩具・人形展」

日本各地の伝統的な玩具や、アジア・南米・アフリカなどの珍しい人形を、どうぞご覧ください。

会 期 6月9日(火)～8月30日(日)
会 場 松本民芸館
料 金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)
問 合 せ 松本民芸館まで

あとがき

近年注目される「クールシェア」。涼しい場所へ出かけて、涼しさをみんなで分けあい(シェアする)、社会全体としての節電・省エネルギーを図る取り組みです。夏の暑い日こそ博物館へ！涼しさの中で新たな発見に出会えます。(Y.S)

窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

将棋教室

日 時 7月18日(土) 午前10時～午後4時
会 場 窪田空穂生家
対 象 小中学生(午後は大人と段位のある小中学生)
料 金 無料
指 導 者 プロ棋士
申 込 み 電話等で窪田空穂記念館まで

囲碁教室

日 時 7月29日(水)・7月30日(木) いずれも午前10時～正午
会 場 窪田空穂生家
対 象 小中学生
料 金 無料
指 導 者 地元指導者
申 込 み 電話等で窪田空穂記念館まで

考古博物館から

☎0263-86-4710

第37回あがたの森考古学ゼミナール「松本の弥生時代が面白い」

日 時 第1講7月12日(日)、第2講7月26日(日)
いずれも午後1時30分～午後3時30分
会 場 あがたの森文化会館2-8教室
※駐車場が少ないため、公共交通機関のご利用をお願いします。
定 員 各講先着60名
料 金 各講200円
講 師 第1講「松本の弥生時代の始まり」
設楽博己氏(東京大学大学院教授)
第2講「松本の弥生遺跡」
三村竜一(松本市文化財課埋蔵文化財担当係長)
申 込 み 電話等で考古博物館まで

古代の不思議なアクセサリー「勾玉づくり講座」

日 時 8月1日(土) 午後1時30分～午後3時30分
会 場 考古博物館
対 象 小学生以上
※小学生低学年のお子様は保護者の付添が必要です。
定 員 先着30名
料 金 300円
持 ち 物 汚れても良い服装、マスク
申 込 み 電話等で考古博物館まで

山と自然博物館から

☎0263-38-0012

動物園の見かた講座

日 時 7月25日(土) 午前9時30分～11時(雨天中止)
(9時15分 山と自然博物館前集合)
会 場 アルプス公園小鳥と小動物の森
対 象 一般
定 員 20人
料 金 大人300円、中学生以下無料
講 師 吉川登氏(小鳥と小動物の森職員)
申 込 み 7月2日(木)から電話等で山と自然博物館まで

あなたと博物館 No.199

発行年月日/平成27年7月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: <http://www.matsu-haku.com>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp



印刷 川越印刷株式会社